

青森市指定文化財「又八沼に生息するシナイモツゴ」の生息状況について

1 青森市指定文化財「又八沼に生息するシナイモツゴ」の概要

概 要：全国的に絶滅が危惧される希少な淡水魚で、かつては、北限が秋田県、岩手県とされていたが、平成5年に又八沼で発見され、本市が自然分布の北限と考えられるようになった。生物的な価値のみならず、以前は地元住民に「沼チカ」と呼ばれて食されるなど、歴史的な価値も高い。

指定年月日：平成12年10月31日

管理団体：シナイモツゴを守る会（会長 葛西 清光〈油川連合町会長〉）

※会員は油川地区各町会長を中心に構成

2 又八沼へのモツゴの混入

令和2年8月、本市水産振興センターによる生息調査により、又八沼から本県には自然分布しない「モツゴ」と思われる個体が発見された。その後、シナイモツゴを守る会が、滋賀県立琵琶湖博物館の協力を得て行ったDNA分析によって、モツゴであることが確認された。

モツゴは、関東以西を中心に生息する日本の在来種であるが、本県には自然分布しないことから、「国内外来種」とも呼ばれる。

シナイモツゴの生息地にモツゴが混入した場合、モツゴのオスとシナイモツゴのメスとの間で自然交雑するという特徴があり、モツゴのオスは、繁殖力が非常に強いことから、シナイモツゴ同士の繁殖が阻害され、次第にシナイモツゴからモツゴへと種の置き換わりが進み、最終的にシナイモツゴは絶滅することが知られている。

※シナイモツゴを守る会が行った又八沼での生息調査結果（令和3・4年度、合計48回）

シナイモツゴ5.4%（85匹）、モツゴ94.6%（1,503匹）



3 令和5年度の取組

- ・又八沼からモツゴを駆除することを目的として、8月19日に淡水魚の専門家である弘前大学名誉教授 佐原 雄二氏（シナイモツゴを守る会顧問）が主体となり、沼の水抜きが実施され、シナイモツゴを保護。
- ・その後、11月11日には、水位が回復した又八沼と県立青森中央高等学校の人工池に放流。

4 令和6年度の取組

5月2日に、中央高校の人工池でシナイモツゴの産卵が多数確認され、その後、10月10日には、孵化した稚魚のうち、約100匹が又八沼に放流された。

一方、今年度又八沼で実施された合計13回の生息調査では、今年生まれた個体を含むシナイモツゴ7匹が確認され、昨年放流した個体が無事に越冬し、繁殖・孵化するなど、順調に回復していることがうかがえた。

とりわけ、生息調査において、モツゴが確認されなかったことは、令和5年に行った沼の水抜き
の成果といえる。



5月、中央高校の人工池でシナイモツゴの産卵が多数確認される。粒状に見える一つ一つがシナイモツゴの卵（人工池に沈めた植木鉢の外側側面）

5 今後について

教育委員会としては、「又八沼に生息するシナイモツゴ」を貴重な文化財として維持していけるよう、シナイモツゴを守る会や青森中央高校等が行う様々な保護活動に引き続き協力していく。